

参考資料 にぎわいトランジットモール連絡協議会名簿

構 成 員			出 席 者	
会 長	八戸中心商業街区 活性化協議会	交通体系・街づくり検討委員会	会長	岩岡 徳 衛
			委員長	月 館 裕 二
	八戸商工会議所	運輸交通部会 八戸通運(株)	副部長	三 浦 悌 二
			代表取締役社長	
	八戸市十三日町 商店街振興組合		代表	橋 本 精 二
	商店街振興組合 三日町三栄会		代表	類 家 徳 昌
	(有)八戸中央ビル		常務取締役	月 館 祥 文
	(有)アーバン開発	(レック館長)	取締役	遠 藤 剛
	(株)桃川コーポレーション		チーフマネージャー	村 井 理 子
南部バス(株)	八戸営業所長	所長 営業課長	川 崎 浩 高 橋 学	
十和田観光電鉄(株)	八戸営業所長	所長	小 野 太	
八戸市タクシー協会	(八戸タクシー内)	事務局長	三 浦 浩	
青森県	県土整備部 道路課 (道路環境グループ)	課長 (GL) (総括主幹)	藤 本 正 雄 (倉谷 一仁) (田中 仁司)	
		八戸県土整備事務所 道路管理課	課長	長 崎 直 樹
八戸市	商工労政課 道路建設課 道路維持課 交通部運輸管理課 都市政策課	課長 課長 課長 課長 課長	大 村 典 康 田 中 博 赤 石 和 夫 佐 藤 雅 英 石 黒 一 之	
オブザーバ	青森県八戸警察署	交通第二課	交通官 課長 事務取扱 規制係長	丹 藤 則 男 山 口 淳 一
	八戸商工会議所	業務部	部長	佐々木 広 幸
	八戸市十三日町 商店街振興組合		事務局長	加 藤 英 明
	商店街振興組合 三日町三栄会		事務局	出 町 京 子
事務局	八戸商工会議所	業務部 業務課	課長	高 森 訓
	八戸市	商工労政課 道路建設課 都市政策課	課長補佐 主査 技師 まちづくり GL 計画調査 GL 主任技査 技査	久 水 一 浩 大 沢 拓 也 新 岡 大 輔 田 湯 俊 行 澤 田 美 智 明 館 花 正 義 菊 池 博 文

にぎわいトランジットモール連絡協議会

第1回 意見メモ

と き：平成17年7月26日 14:00~16:00

ところ：八戸市庁

(意見)

*「 」の発言は事務局

- ・実験1でイベントを実験時間と同じくできるかどうかは、話を持ち帰らせてほしい。
(岩岡会長)
- ・六日町のくらしのみちづくり実験の際、荷捌きスペースに一般車が停まっても、誘導員が注意していなかった。誘導員の指導を徹底してほしい。
- ・ほかの道路で、違法駐車が支障になって交通渋滞がでるのではないかと心配している。誘導員を配置したから解決するともいえないが、誘導員をおく、周知徹底するなど、対策が必要ではないか。
- ・課題がみえることも社会実験として必要と思う。あまり作画的に対策を講じても良くない。
協力してもらえよう、実験が行われることをピーアールしていきたい。
- ・荷捌き車両を入れないとなると、時間指定で配達してもらっている店があり、生物など配達不可能なものも出てくるのではないかと思う。
配達時間を変えるなど、店側の工夫で何とかできないものか。
- ・社会実験ではなく、実際にやるとなれば、本当に問題となるはずだ。実験の段階から問題にしまってはいかがなものか。
- ・これを機会に店主もどうにかしなければならぬのだと思う。
- ・平常時の交通量は図らないのか。
平常時の平日について調べることにしている。
休日については既存の調査がある。
- ・歩道と、車道のオープンカフェスペースに段差がある。これをどう考えるのか。
- ・段差があることで、搬入は車道側を通る必要が出てくる可能性があるのではないか。
- ・六日町の実験の時に比べて、荷捌きスペースが少ないのではないか。
- ・コンビニがワシントンのところと、中央ビルのところと2軒ある。コンビニは4t車で5回くる。100円ショップも1日2業者が搬入にくるようだ。ほかは自家用車で搬入しているようだ。
- ・商業者は余計な車両を排除したいと考えている。オープンカフェをやりたいということではない。例えば車線の半分にするなど、そんなにスペースをとらなくても良いのではないか。座る人もいないだろう。

社会実験として取り組む上では現状の車線を生かして交通規制をかけるしかない。これを踏まえて実験の主旨にあうようにスペースを振り分けている。どのような形がふさわしいかは実験を経て検討する必要があると考えている。

- ・周知は1週間前で足りるのか。
1週間前までには周知を終えるということだ。広報では9月1日号に載せる。新聞のチラシはあまり早すぎても効果がないので、1週間前と考えていたが、もっと直前の方が良いのか。
- ・イベントのチラシは2日前。車の人に周知を図るなら、BeFMとRABラジオが良い。
- ・協議会は何回行う予定か。
実験実施までに3回行う予定でいる。
- ・実験を行う曜日を考えることはできないか。
- ・タクシーは比較的火曜、水曜の利用が少なく、トラックは金曜あたりに多いのではないか。
- ・タクシーは客待ちのスペースがいないのではないか。現状でタクシーはお年寄りなどにずいぶん使われているようだ。
- ・事務局は将来形をどのように考えているのか。

これまでトランジットモールとしていく方向は打ち出されているが、交通規制の内容としてはまだなにも決まっていない。現状の道路の状況からみてまず歩行者天国は難しい。トランジットモールなので将来的には実験3-2のような形が望ましいが、街区への荷捌きが表通りからしかできない状況を踏まえれば、時間帯によって荷捌き車両を入れるなど、実験の3-1あたりが現実的ではないかと思う。

- ・実験の1は、これまで歩行者天国でやってきていることから、実験しなくても良いのではないか。
実験は、実施する順番は前後しているが、交通規制が高いものから低いもので構成している。また、イベントを行う日を初日に入れることで、実験のアナウンス効果が高いと考えている。
国からの補助が減額になったために、当初4日2回、計8日で検討していたものを、今回提案している内容に規模を縮小した経緯がある。これまで歩行者天国を8時間行ったことはないので、是非、今回実験してみる価値があると考えた。
過去に調査した交通量のデータはあるが、他の実験と同じ測点のデータで比較したいという主旨もある。
- ・実験の3-2は1日ではどうか。高齢者などの利便性を考えて、タクシーは利用できた方が良い。
- ・実験2が隅に追いやられているようだが。
本来的なトランジットの形である実験3を重視したいと考えた。
6日間で、どのように実験を割り振るかということだと思う。減額されてからまず日数を減らして7日間の実施を検討した。その際は、実験2も2日設けていたが、さら

に1日減らさなければならず、6日間となった経緯がある。

- ・トランジットモールといえば、ヨーロッパのイメージがある。是非とも実験3-2は取り組んでほしい。タクシーについてこれまであまり文句がないのではなかったか。
- ・社会実験のことは県警本部は知っているのか。
- ・非現実的で無理と分かっているものでも実験するのか。
- ・県警本部へ実験の報告は行っている。(丹野委員)
- ・あくまでも幹線道路であることを念頭においてほしい。
- ・自転車はどこを通すのか。

自転車を手前で駐輪してもらうか、降りて押して歩いてもらう。
自転車についてもPRしていくことが必要だろう。

- ・十三日町の交差点は、スクランブルではなく、夜間と同じ、通常の信号にした方が良い。車がこないと赤でも渡ろうとする人がいて、制止すると文句をいう。
- ・廿三日町の交差点で、車両を振り分けるのはもっと交差点の手前の方が良い。
- ・特定の車両だけを中に通すことができるようにするには、どのように車を見分けるのか。
- ・体の不自由な方など、特別な理由がある場合はどうするのか。ケースを想定して検討してほしい。
入っても良い車両には、ステッカーを配るなど考えられるが、今後の検討課題だ。
荷捌きスペースを廿三日町などに確保できるよう検討している。
- ・実験の順番は、実験3-1と3-2を入れ替えるのか。
- ・混乱がないように、資料の通りが良いのではないか。

* 次回、8月19日 15:00~

にぎわいトランジットモール連絡協議会

第2回 意見メモ

と き：平成 17 年 8 月 19 日 15:00~16:00

ところ：八戸市庁

(意見)

* 「 」の発言は事務局

- ・まちなかの交通問題については、科学的分析が必要になってきていると感じる。この実験を機会に是非とも円滑な交通環境づくりについて検証していただきたい。
- ・9/25のストリートフェスティバルは、実験時間にあわせて18時ぐらいまでは延長することになった。(岩岡会長)
- ・タクシーについては、迎車かどうか見分けることはできないのではないかと。
・バスも、定期バスのほか、観光バスなどもあると思うが、バスについてもどうするのか明確にする必要がある。
本来的には、通過交通となる以上は、バスであっても迂回してもらうことが原則だと思う。
実際は、入ってこようとする車両を制止することは難しいと思う。誘導員に危険も伴う。実験を周知し対応をお願いした上で、それでも進入しようとする車両については入れざるを得ないと考えている。
- ・観光バスも通れないことを、観光部にも事前に周知しておく必要がある。
- ・第一ワシントンホテルのお客さんの送迎はどうするのか。
タクシーやバスについては、再度個別調整が必要と思う。
ホテルの送迎については、チェックインの時間帯が問題になろう。近くにおろしてもらい、実験を眺めながらホテルまで歩いてもらってもよいのではないかと。ご協力をお願いする方向で考えたい。
- ・9/25は市庁前で「こどもフェスタ」を行うと聞いている。6千名が集まるというが、調整はついているのか。
社会実験について、教育委員会を通じてお知らせしてもらおう。
- ・これまでのイベントを経て、馬場町の通りには誘導員が必要との話があがっているようだが。
周知が行き届いてきたせいか、表通り周辺をさけて遠回りする人が多くなってきているようだ。6月のイベントの際は、バスぐらいしか通らないほど、一般車が走っていなかった。
- ・オープンカフェへの出店は、車道や歩道も良いのか。これまでは敷地内ではできなかった。考え方を変えたのか。
あくまでも出店は敷地内であり、テイクアウトでオープンカフェまで持ち込めるという考え方。これまでと変わらない。
- ・歩行者はどこを横断できるのか。どこでも横断できるのか。
本来的なトランジットモールでは、バスが通っていなければどこでも通れる。

理想を追求したいところだが、現状の交通規制の延長線上で実験を行うことになるので、交通課と相談したい。

- ・交通規制の看板には、しっかりと連絡先の電話番号を入れるべきだ。
- ・「トランジットモール」ではよく分からない。もっと主旨が伝わるような看板が良いのではないか。
連絡先が必要という意見であれば、事務局として市の電話番号を入れる。
トランジットモールの説明など、看板に入れる情報を増やしても分かりづらくなってしまうので、交通規制があることを伝える看板としている。
看板については、後日、交通課と調整したい。
- ・予算との兼ね合いもあるだろうが、チラシを配布したらどうか。信号待ちをしている車のドライバーに配っても良いのではないか。
- ・にぎわいストリートフェスティバルの折り込みチラシでは、期間が合わずに周知ができないのではないか。
周知方法としては、市報や新聞広告、マスコミへの投げ込みなど行う。新聞広告は多くの人に見てもらえるよう、プロにお願いして時期を選んで掲載する。
このように実験の周知は独自を行った上で、にぎわいストリートフェスティバルのチラシでも社会実験についてふれてもらえるよう、ご協力いただけないかという主旨である。
- ・実験2の交通量の見通しはどうか。普段と変わらないのだろうか。
- ・普段と変わらないならば、左折レーンを設けて車が流れやすいようにしてはどうか。
- ・例えば、十三日町の交差点に左折レーンを設けても良いのではないか。
現状で駐停車している車両が多く、1車線は車が走っていない状況にある。これを踏まえると、実験2の交通量はあまり変わらないと思う。
トランジットモールの実験は、自動車の通行を便利にするよりも、歩行者を優先した道をつくることにある。十三日町交差点に左折レーンを設けることを課内で検討した経緯もあるが、このようなトランジットモールの主旨から設けない方向で考えている。
車椅子が歩道からオープンカフェスペースへ近づけるのは、歩道の切り下げのある横断歩道付近になる。右折レーンを設けるのではなく、できるだけ横断歩道近くまでオープンカフェスペースとしたいところだ。
- ・実験中、警察の取り締まりはどうか。
- ・通常通りの対応で考えている。実験である以上は通常通りである方が良いのではないか。
- ・三日町交差点は夜間の信号に切り替える。
- ・どこにカラーコーンを置くのか。ラインの上か。50cm くらいの路肩はとれるのか。
車線を区切るラインの外側にカラーコーンを配置する。路肩も考慮したい。
- ・ゴミの対応はどうか。個店で対応するのか。
- ・オープンカフェのテーブルの配置はどうか。
- ・個数が結構足りないかもしれない。
- ・商活協の方でも考えてみる。

別途ご相談したいと考えている。

- ・協力してもらいたい事項など、各店舗向けの社会実験のペーパーを作成してほしい。

以 上

* 次回、9月5日 13:30～ 八戸市庁本館3階第3委員会室

にぎわいトランジットモール連絡協議会

第3回 意見メモ

と き：平成 17 年 9 月 5 日 13：30～14：30

ところ：八戸市庁

(意見)

* 「 」の発言は事務局

- ・荷捌きの車両が、裏通りに集中し、交通渋滞が起こることが考えられる。これに対する対策はないのか。
裏通りは実験中も現状と同じで、特段交通規制はない。
- ・路駐車は必ずある。長横町の社会実験の時は問題となった。調査した方が良いのではないか。
限られた予算の中での人員配置なので、工夫して取り組みたい。
- ・三日町・十三日町間はバスがとばすのではないか。徐行させることはできないか。
事前に徐行するようドライバーに伝えてもらうことはできると思う。
- ・バスが事故を起こした場合はどうなるのか。
通常の交通事故と扱いは同じではないのか。
- ・オープンカフェのテーブルやイスが倒れてケガをした場合などはどうなるのか。
・誰に責任が及ぶことになるのか。
・占用許可を出した道路管理者にも責任が及ぶのではないか。
・イベントなどは、主催者の責任になってくるのではないか。
・イベント保険が使えるかどうかを含めて、協議会として検討する必要がある。
オープンカフェを今後も続けていくときの課題にもなってくるだろう。
- ・代替駐車場は入り口がかなり狭いところを入れて行かなければならない。誘導員が必要ではないか。
人員を新たに増やすことは基本的に難しく、利用される各ドライバーに不便をかけることになるが、ご了承頂きたい。
- ・カラーコーンの設置、撤収は安全なようにお願いしたい。
・実験 2 は一般車が入り続けるので、注意してほしい。
・設置にあたって作業車はバックしないでほしい。
- ・バスを仕分けることは困難ではないか。
・タクシーについても降車はまだ良いが、乗車を見分けることは難しいのではないか。
再度調整させて頂きたい。
- ・29 日は交通安全週間のイベントとして、交通安全市民のつどいの中で、パレードを行う予定であるので、ご協力をお願いしたい。(15 時～16 時ごろ)

以 上

* 次回、実験後に開催（後日連絡）

にぎわいトランジットモール連絡協議会

第4回 意見メモ

と き：平成 17 年 12 月 1 日 15：30～17：00

ところ：八戸市庁

(意見)

- ・歩行者にとって楽しい空間がほしい、その一方で車、駐車場が必要との相反する意見が聞かれる。そのような中で、今回の社会実験はまちなかの将来を考える一つの試金石になったと思う。(会長)
- ・まちなかの現状では、トランジットモールを実施しても渋滞が発生することは否めない。車の量自体を減らすことを考える必要があるのではないか。
- ・もっと公共交通の利便性をあげて、車から公共交通を使ってもらえるようにするべきではないか。(月舘祐二氏)
- ・今ある三車線をどのように使っていくかを考えていくと良いのではないか。タクシー乗り場や配送の場所をとるなど考えれば、もっと円滑な交通にできるのではないか。(月舘祥文氏)
- ・なぜ、この社会実験を行うのか、その背景となる、コンパクトシティという考え方をちゃんと示すべきだった。意義を知らない市民が多く、分かっていたらもっと社会実験に理解を示していたと思う。(遠藤氏)
- ・まちで行われること、市民はみんなまちが行っていると思っている。苦情があったことが心残りだ。もっと周知されていれば良かったと思う。(村井氏)
- ・社会実験の結果は概ね予想通りだったと思う。非常に走りやすかったという話を聞いている。入り口部分で混雑はあったが、遅れはなかったとのことだ。(川崎氏)
- ・廿三日町で混雑したほかは、特に問題はなく、遅れはなかったと聞いている。(小野氏)
- ・苦情があった。会社のほか、協会として苦情を受けるものもあった。何でこんな実験をするのかという必要性が分かっていない苦情から、迂回してワンメーターあがったことをどう保証してくれるのかというものがあつた。障害者の方からの苦情で、歩けないからタクシーを使っているのに、弱い者いじめをしているのかと、返答に困るものもあった。
- ・実験の一週間の売り上げは落ちていた。乗車数、売り上げともにマイナスであった。
- ・苦情は、想定していた範囲ではあつた。(三浦浩氏)
- ・実験はマイナスイメージが多かつたのではないか。そのマイナスを、工夫できるところは工夫してプラスに転じていくことができるように十分検討することが必要だと思う。例えば、歩道側を座らせることも考えられたと思う。工夫できることはしていく必要があり、商工会議所も協力できることはしていきたい。(高森氏)

- ・小さい子供や、体が不自由な人が安心して使えるようなまちにできたらと感じた。安全に座れる場所が必要だと思う。
 - ・市民からの意見は三栄会にもあった。苦情半分、良かった半分というところだ。(出町氏)
- ・どんなに周知してもあまり状況は変わらなかったのではなかと思う。市は色々な手段で周知していたと思うが、見ていない人は見ていない。まちに出ていると色々苦情が聞かれた。なぜこんな不便なことをやるのか、自分にとって不便なことは全部批判する。わざわざ横断しないようにとポールがあるのにそこをまたいで、くぐって横断する人が多くいた。マナーの悪さが目立った。
 - ・実験なので、色々な課題が出てきて当たり前だと思う。改善していく余地がある。週1にするか月1にするかは別として、定期化していくことは考えられると思う。これにどのように実験の成果を生かして行けるかだと思う。(加藤氏)
- ・ガードレールでも付けて渡れないようにしてしまうことも考えられるが、本当は規制することはしたくない。自分のためなのだから。
 - ・実験をみて、トランジットモールの実現には、周辺道路整備が絶対に必要と感じた。現状では困難であろう。(丹藤氏)
- ・廿三日町で混雑したが、特に遅れはなかったと聞いている。トランジットモール内は走りやすく、スピードを出しすぎるとの指摘を頂き、徐行に努めた次第だ。
 - ・横断する人が気になるという話や、オープンカフェとバスが近すぎるのではないかという話もあった。座りたくなるような仕掛けが必要だと思う。(佐藤氏)
- ・実験がどんなものか見に行った際に、歩行者が意外といるのではないかと感じた。
 - ・周辺の混雑からみて、現状でのトランジットモールの実施は困難と感じた。何かしら交通環境の改善の取り組みとあわせて、段階的にトランジットモール化を目指すことが必要に思う。いきなりインナーリングを整備することは難しい。例えば、駐車場案内システムを付けるのにあわせて実験2などを行うなど段階的な取り組みを考えてはどうか。(赤石氏)
- ・直前に資料を渡されても理解できない。事前に配布してほしい。
 - ・実験のための実験ではないので、何かに結びつける必要がある。
 - ・インナーリングをまじめに考えても、実現は困難ではないだろうか。(田中氏)
- ・この実験は都心再生の取り組みの一環であり、にぎわいを取り戻す新しい取り組みと考えている。まちを良くしていこうというものであり、今後是非ご理解をいただきたい。(長崎氏)
- ・大動脈の交通を止めるというリスクがある実験だったと思う。もう少し手前から迂回させることができれば、本当は良かったと思うが、まちの構造上むずかしい。
 - ・気になったのは、歩車分離のために設けられた車道と歩道の段差だ。一体性を持たせづらいと感じた。(藤本氏)
- ・勇気を持って行った実験だと思う。今後はどこに迂回させるか、どこに駐車させるの

か、その対策を検討すべきであろう。インナーリングのような大規模なものでなくて良いので新荒町の方から迂回させるような道路はできないものだろうか。(類家氏)

- ・現段階でフルランジットモールは難しいのではないかと。配送車やタクシーの役割を再認識する必要があると思う。日曜と平日ではまちの使い方が違うと思う。平日にオープンカフェでのんびり過ごすことはないのではないかと。
- ・ニコレットモールのようにすることも考えられるが、八戸では常に2車線流せるようにして、1車にパーキングメーターを設けるなど1車の使い方を考えてはどうか。(三浦悌二氏)
- ・意義ある実験であったと思う。実験結果への対応は幅広く考えることが必要であろう。業務機能や公益機能の多くが郊外化してしまった今、様々な人たち、多くの人たちの理解を得るためには、道路のキャパシティを高める、アクセスを良くすることが必要になるのではないかと。役所側には道路がない。番町や堤町の通りは八ナミズキ通りにT字でくっついている状況だ。
- ・実験中は、長者山のほうまで渋滞になり、まちに入ることができなかった。まちへのアクセスは窮屈であり、隘路の解決が必要に思う。段階的に信号や一方通行などやりながら、インナーリングまでいかないうちでも道路を整備することが必要ではないかと。(橋本氏)
- ・新たな道路を整備するための費用や地元への負担を考えたら、車を減らして公共交通の利用を高めた方が良いのではないかと。公共交通に費用をかけるべきだと思う。総合的に交通を考える必要がある。(月舘祐二)
- ・以前、車の視点から、パークアンドライドの実験を行ったことがある。歩行者の視点から、今回の社会実験を行い、オープンカフェを含めて色々改善すべき点が出てきたと思う。パークアンドライドの実験は、実施は難しいという結果であった。現状の車の利便性を考えれば、なかなか難しいことは分かっていたかと思う。ただ、これまでの取り組みを組み合わせることで良い結果を出せる可能性もあると考えている。
- ・通過交通の振り分けも、外環状道路などで今後分散化が図られてくるのではないかと考えているし、PRが何よりも必要と考えている。以前ゆりの木通りができた際、表通りからゆりの木通りへと通過交通が移ったが、ゆりの木通りが混むと分かると再び表通りに戻ってきた経緯がある。走り安い方へ通過交通は移るもので、流れの良い道路ができてくれば、そちらに徐々に通過交通が移っていくと思う。
- ・計画されている道路90路線の内、既決路線は2本となっている。インナーリングを整備するとしてもかなり先の話になる。(石黒課長)
- ・発想の転換が必要になってきていると思う。3年間まちまで歩いたが、非常に歩きにくいことが分かった。イオンの中は駐車場をあれほど歩くのに、まちなかで歩く人はいない。公共施設や住宅が郊外化し、車で行かなければならないような状況になってしまっている。例えばバスがないところにはもう公共施設はつくりたくないなどの考え方が必要なのであろう。
- ・まちなかの商店街に迷いがある。広域か、それとも小学校区6つ中学校区3つぐらいの地元の商店街を目指すのか。Recには車に乗れないような非常に若い人が集まって

きているし、非日常的にフルモールにこれまで取り組んできている。タクシーと交通弱者の問題もある。このようなことを含めて発展的に検討していきたいと思う。(会長)

以 上

* 次回、後日連絡